

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190200311		
法人名	株式会社 ケーサポート		
事業所名	グループホーム ユキササの家		
所在地	札幌市東区北16条東3丁目1番50号		
自己評価作成日	平成25年8月30日	評価結果市町村受理日	平成25年10月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方と職員、入居者の方同士と一緒に過ごす時間を大切にしています。一緒に座ってリラックスしたり、冗談を言い合ったり大笑いしたり、一緒に歌を歌うなどして、ご本人の気持ち・大事に思っている事・したい事をくみとれるように同じ時間を過ごしています。入居者の方が主体となり、その人らしい暮らしを送れるように、一人ひとりの意向や情報を把握し、会話の中に取り入れたり退屈しないように場面づくりをしています。その一つとして、来訪者の方との交流があり、入居者の方の力を発揮できる機会として場面づくりをしています。予定や計画にこだわらず、その方のその時の気分に合わせて活動できるように意識して関わり、居心地のいい‘私の時間’‘私の空間’を過ごしていただけるようにしています。入居者の方が地域住民として暮らしていけるように、そして、地域のなかにあることでグループホームのご理解をいただき、社会を組み立てている‘家’でありたいと思い、地域のイベントに参加したり、近隣の方との交流を大切にしています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=tr&JigyosyoCd=0190200311-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 25 年 9 月 26 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつでもどなたでも目にすることのできるリビングに掲示し日頃から心かけています。その人らしい暮らしや時間を過ごせるように、柔軟な支援ができるよう振り返りと工夫を重ねながらホーム全体で取り組んでいます。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板やご近所へのお買い物、地域のゴミ拾いやお祭りへの参加を通し、地域の方々のご挨拶を大切にしています。ユキササでバーベキューをする時は、入居者の方と一緒にご近所へご挨拶に伺っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご見学に来られた方や実習生の方、ボランティアの方、また運営推進会議や避難訓練等で認知症の人への支援をお伝えしています。また、地域行事への参加や普段の買い物を通し、認知症の人のご理解をいただけるように取り組んでいます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	認知症ケアに関する考え方や支援の工夫、ホームでの実際の取り組みなどを、入居者の方も参加してお伝えしています。地域の方やご家族の方の視点によるアドバイスをいただき、改善とサービス向上につなげています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認知症高齢者110番の家、SOSネットワーク、日常生活自立支援事業、災害時要援護者支援ネットワークの登録や検討会に参加させて頂き、グループホームにできる事求める事等を話し合っています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束虐待廃止委員会を設置しています。日常的に自由な生活の支援を行い、困った事や改善点は定期的に話し合って解決し、入居者の方の行動を止めないケアにつなげています。日中、玄関の鍵は解錠しており、思いついた時に気軽に外の空気を吸えるようにしています。言葉の拘束に留意し気持ちに添った声かけをしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束虐待廃止委員会を設置しています。無意識のうちに行われぬよう、自身とチーム全体の言葉づかいや対応について日頃から意識し、虐待に関する知識を共有して虐待防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活に必要な手続き・制度が受けられるように関係機関と連携を図り活用できるように支援しているが、制度についての理解が十分でない為、学ぶ機会を設けていきたいと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約や改定の際、書面と併せてご説明させていただき、ご理解ご納得をいただいた上で同意をいただいております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族へ、入居者の方の日々の様子や会話をお伝えし、ご家族から頂いたご意見やご要望は、ケース記録や苦情報告書に残して全職員で共有し、介護計画の実行や改善につなげています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のフロアミーティングには管理者も参加し、その時々への解決に向けた意見交換や提案の場があり、職員一人ひとりの意見を大切にしています。日常的には決まった機会はないが、気づいた事があれば話し合える環境になっています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ミーティングや研修がある時は、勤務時間や手当を考慮し、負担なく積極的に参加できるようにしています。職員の得意な分野で力を発揮できる機会があったり、職員間で声をかけ合い働きやすい環境づくりをしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入居者の方が安心して暮らせるように、認知症ケアや病気について内部研修を行っています。また、事業所に届いた研修案内を職員へ連絡し、参加費、研修手当、交通費を支給し負担なく意欲的に参加できるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修を通して意見交換や交流の機会があります。また、関連ホームのお祭りや親睦会、同地区グループホームのお祭りに参加させていただき、他グループホームを知る機会となっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人やご家族、これまで利用されていたサービス機関から、これまでの生活歴や現在の様子をお聴きし、できる事・できそうな事・ご自身で行うのは困難なので支援が必要な事等、それぞれに合わせて必要な支援をできるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	当ホームにどのような支援を求められているか、ご本人にこうあってほしい、ご家族としてこのような事をしていきたい等をお伺いし、ご家族が気にかけている事を支えられるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の環境の変化で一時的なものもあるかもしれないので、生活習慣と現在の様子を考慮し、安全と精神的安定を図りながら、これまでの生活を維持または向上できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方と同じ目線にいること、また日常の支援の中で変化している事を把握し、その方の状態に合わせて、している事できる事を大切に、維持・向上・可能性を大切にしています。何かする時やくつろぎの時間を一緒に過ごして馴染みの関係をつくり、調理やゴミ捨てなど、入居者の方が職員を助けて下さる事もあります。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来訪しやすく入居者の方と過ごしやすい環境づくりをしています。普段から連絡や報告ができる関係を築き、来訪された際は日々の様子をお伝えし、ご家族からの情報や協力を頂きながら、共に必要なケアを考え取り組んでいます。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご親戚の方が来訪されたり、入居者の方が外出外泊される事もあります。遠方の方やなかなか会えない方とは、電話や手紙などで馴染みの関係を続けられるように支援しています。ゆっくりお話を伺う機会をつくり聴かせて頂いた馴染みの場所・人・生活を会話や支援に取り入れています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や個性、他者との関係を把握し、関わり合い支え合える関係を保てるように、食卓の席を工夫したり、時には職員はつなぎ役となっています。入居者の方同士の会話や家事活動等、一緒に活動する時間の他、少し離れた所で歌っている歌を一緒に歌うなど、お互いの存在を感じられる空間づくりもしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまで一緒に過ごしてきた馴染みの職員として、差支えない範囲内で会いに行かせて頂いたり、退去後、困る事がないように必要に応じて情報交換をしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、ささやかな一言にも耳を傾け、ご本人の意思を尊重し「～したい」という気持ちを反映できるように取り組んでいます。これを記録に残して職員間で共有し、それを基に支援できるようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、関係機関からの情報で、これまでの生活歴や環境、状態に応じたサービスの変更を把握し、入居者の方がその時にしたい生活を送れるように、現在の生活を支えています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態に応じて変化する一日の過ごし方に応じて、できる事できそうな事を見極め、その時の会話や行動、様子を記録に残して職員間で共有し、日々のケアにつなげています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人のしたい事や要望が書かれた日々のケース記録や職員からの様々な情報とご家族の要望を基に、介護計画を見直しています。カンファレンスへの参加が難しいご家族の方とは、来訪された際やお電話でご意見をいただいています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その時の状況や対応方法と、入居者の方の発言や行動、支援に対する反応を記録に残して、対応を見直すと共にヒントを見出し、統一ケアを図っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護計画に載っていない事でも、ご本人の考えや想いを尊重し、職員全員で意見を出し合って、その人らしい生活を送れるように努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	設備等の安全快適に関する情報収集をし、地域の公園や施設、盆踊り、コンサート、ゴミ拾いに参加する機会をつくっています。ご本人がやりたい事を諦めることのないように、地域の中で生活していることを体感できるような支援を行っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望される医療機関を主治医とされています。受診の際は、医療機関へそれまでの状態報告をし、治療内容をご本人やご家族に確認して、適切な医療を受けられるように連携体制をつくっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体の変化など見落としがないよう小さな事でも気づいた事は、ホーム職員の看護師へ報告・相談をしています。その日常的な状態報告を看護師から医療機関へつなげています。往診時には訪問看護師のアドバイスを受け支援につなげています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご本人やご家族の治療に関する希望を病院へお伝えしています。カンファレンスの際には、管理者やホーム職員の看護師も同席させていただき、病状・今後の治療方針・ホームとしてできる事等の情報交換を行い、ホームに帰って来られてから安心して暮らせるように早期退院に取り組んでいます。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や状態の変化に合わせて終末期についての意向を伺っています。医療機関と支援の方針を共有し、ご本人ご家族の想いをできる限り叶え、安心して暮らして頂けるようにチームとしてホームでできる事に取り組んでいます。看取り後も話し合いの場を設けました。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	落ち着いて対応できるように事故発生時のマニュアルを作成している他、看護師よりアドバイスを受けています。また、入居者の方の既往歴一覧表を作成し、急変時既往歴について確認できるようにしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、日中・夜間・地震を想定し、地域の方が応援に駆けつけて下さる体制で行っています。応援に来てくれた方もわかりやすいように避難場所を掲示しています。訓練後は結果の振り返りをし今後に活かしています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを守り、状況に応じて場所を変えたり小声で話すなどして対応しています。排泄に関しても自尊心を傷つけないように配慮し、自信を持って頂く事で排泄の自立に向けた支援を行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	服やドレッシング選び、何かをする時等、ご本人が選んで決める場面づくりをしています。意思表示が難しい方には、答えやすい聞き方や、表情・行動からよみとり、応答しやすい場面づくりをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の興味のある事を把握し、一人ひとりのペースに合わせて、その方の生活リズムに取り入れるようにしています。特変があれば職員の動きを柔軟に組み立て、説得ではなく納得していただけるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服・ヘアスタイル・マニキュア等を把握し、その方らしさを引き出し、おしゃれを楽しんで生き生きと暮らして頂けるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のお好みの物や季節の物を献立に入れていきます。その方の得意な事できる事を把握し、一工程でも参加して頂けるように雰囲気づくりや、わかりやすい環境・声かけの工夫をしています。食事時間も楽しくなるように盛り付けの工夫や雰囲気づくりを大切にしています。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分摂取状況を把握し、十分に確保できていない方には、その方に合ったタイミングと内容で摂取できるようにしています。嫌いな物や禁食品のある場合は代替食を用意し、摂取量や栄養バランスが落ちないようにしています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人のタイミングをうかがい、嫌だな面倒だな…と思われないような声かけをしています。できるところまではご本人に行って頂き、自立から全介助の中でご本人の状態を分析し、その方に合った方法で口腔ケアを行っています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄間隔や体調を把握しトイレで排泄できるように支援しています。夜間紙パンツを使用されている方も日中は布パンツに置き替え、快適に過ごして頂けるようにしています。失禁が増えた時は、原因を探りパターンを調べて声かけの工夫をしています。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お好みの飲み物を把握することで水分量の確保に努め、乳製品や食物繊維の多い食品を取り入れています。階段を利用したり家事活動や散歩で排便を促せるようにしていますが、必要に応じて腹部マッサージや下剤の調整を行っています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前・午後いつでも好きな時に入浴できるように準備しご本人が入浴したいタイミングを優先しています。職員からのお誘いが必要な場合は、意欲を引き出せるように雰囲気づくりや、職員が交代して声かけするなどの工夫をしています。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して眠れるように居室に入られる時の声かけや照明音などに配慮しています。もともと就寝時間が遅い方とは眠くなるまで談話するなどの対応をしています。体調に応じて休息の時間をもてるようにしています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病歴を把握し、現在服薬中の薬の効能や副作用を理解するよう努めています。処方に変更になった場合や頓服服用時には、特に留意して経過を観ています。服薬時は、氏名・日付け・錠数を確認し飲み込むまで見守り支援しています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	米とぎや日めくりカレンダーをめくるなど、一人ひとりの得意な事・関心のある事・できる事を続けられるように、おしつけではなくご本人の気持ちでして頂けるように支援しています。カラオケや散歩などの生活の楽しみの創出を心がけています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「外の空気吸いたいね」「天気がいいね」などの発言を大切に季節感を感じられる外出やタイミングを活かし、日ごとの気分に合わせて支援しています。車や地下鉄での移動も支援しています。初詣や外食等の機会をつくっていますが、一人ひとりのその日の希望に沿った外出を叶えられていないところもあります。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご希望に応じて、ホームでのお預かり又はご本人が持てるようにし、買い物や支払いの場面づくりをしています。ご本人がお財布を持って安心できるように、一緒に金額を確認して補充できるようにしています。紛失を防ぐ為、定期的に残金の確認をさせて頂いています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族やボランティアの方へ、お手紙を書く機会をつくり、ハガキの購入・ポストへ出しに行く楽しみづくりもしています。贈り物にはお礼の電話をかけるなどして、お付き合いを大切にできるように支援しています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度管理の他、お花を飾ったり、室内の明るさやBGMも心地よくなるようにしています。台所の引き出しには入居者の方が書いた文字で表示をつけたり、今日の日付がわかりやすいようにカレンダーの工夫をしています。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆でお茶を飲みながらテレビを観たりして楽しめるようなソファの配置や、少人数や独りで音楽を聴いたり新聞を読んで、ゆったり過ごせるようなスペースをつくっています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使い慣れた物や馴染みの物を持って来て頂いています。入居時や掃除の際に、ご本人やご家族と相談しお好みや身体状態に応じて、暮らしやすく安全で衛生的な環境づくりをしています。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングや階段の他、居室内にも手すりを設置し、安全な環境で思うように移動できる環境になっています。車椅子の方も伸び伸び移動できるように、広い玄関からスロープにつながっています。文字や写真で表示し、わかりやすく生活できるように工夫しています。			